

地震が発生したら、落ち着いて行動を

■緊急地震速報に注意しましょう

緊急地震速報は、地震の発生直後に、震源に近い地震計で捉えた観測データを解析して震源や地震の規模(マグニチュード)、各地の揺れの到達時刻や震度を推定し、可能な限り素早く知らせる情報です。テレビやラジオで受信してから、強い揺れが来るまでの時間はわずか数秒から数十秒です。その短い間に自分の身を守るための行動をとる必要があります。

①丈夫なテーブルや机の下にもぐって、自分の身を守る

家具や家電製品の転倒や落下、ガラスの飛散から身を守ります。特に頭部を保護しましょう。大きな揺れの最中に火を消そうとするのは危険です。



②揺れが収まったら、すぐに火の始末を

ガスコンロや暖房器具の火を消します。ガスは元栓を閉め、家電製品はコンセントを抜くかブレーカーを落とします。万一出火したら、慌てずに消火を。



③玄関の扉や窓を開けて、避難口を確保する

特に集合住宅では、建物のゆがみでドアが開かなくなることを避けるため。避難にエレベーターは使えません。



④慌てて屋外へ飛び出さない

屋内では転倒・落下した家具や家電製品、ガラスの破片に注意。スリッパや、できれば底の丈夫な靴を履いて行動しましょう。屋外では屋根瓦や窓ガラス、看板などの落下物に注意。



⑤避難は徒歩で、非常持ち出し品は最低限に

余震の発生に注意しましょう。玄関などの見やすい場所に避難先や安否を書いたメモを貼りましょう。



⑥狭い路地や門・塀の近く、崖や川べりに近寄らない

切れたりぶらさがったりした電線も危険なので近寄らないでください。



⑦傾斜の強い山ぎわでは、ただちに避難を

海岸や河口では、津波のおそれがあるため、高台や丈夫な建物の上階へただちに避難してください。

⑧地域で声をかけ合い、助け合いを

特に高齢者や障がいのある人、子どもたちの安否確認と救助活動を。救護の必要な人には応急処置を。



⑨ラジオなどで情報を確認

震度速報は地震発生後おおむね2分、津波予報はおおむね3分で発表されます。

■外出先で地震に遭ったときの対応

【自動車運転中は】急ブレーキをかけず、ハザードランプを点灯し左に寄せ停止。避難時はキーを抜かず、ドアをロックしない。**【鉄道・バスの乗車中は】**つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。乗務員の指示に従い、勝手に車外へ飛び出さない。

【エレベーターでは】揺れを感じたら、行先階のボタンを全て押し、初めに停止した階ですぐに降りる。万が一閉じ込められたら、インターホンで通報し、落ち着いて救助を待つ。

【屋外では】自動販売機から離れる。ブロック塀の倒壊、看板や割れたガラスの落下に注意し、ビルのそばから離れる。

【オフィスや作業所では】机の下にもぐり、ロッカーや書棚など大型備品の転倒、机上のOA機器の落下に注意する。

【商業施設では】かばんなどで頭部を保護。ショーケースや大型で重量のある商品から離れる。係員の指示に従い、慌てて非常口や階段に殺到しない。

【劇場やホールでは】シートとシートの間身を隠す。係員の指示に従い、慌てて非常口や階段に殺到しない。

【地下街では】壁伝いに歩き、最も近い出口から地上に出る。

■通勤・通学先から帰宅するときの対応

発災後は、公共交通機関の運休や道路の渋滞などで、交通手段を失い、通勤・通学先から自宅まで徒歩で帰らなければならない事態も想定されます。まずは動き出さず、安全な場所で待機することが大切ですが、いざというときに帰宅困難に陥らないよう、次のような心得をしておきましょう。

【準備しておくもの】

- 通勤・通学先から自宅までの経路を示した「帰宅地図」。
- 携帯ラジオ、携帯トイレ、非常食、飲料、タオル、雨具、懐中電灯、マスク、携帯カイロ、歩きやすい靴をかばんや職場・学校に。

【歩き出したら…】

- トイレや飲料は徒歩帰宅支援ステーション(コンビニエンスストアやガソリンスタンドなど)を利用する。
- 家族の安否を確認する。→詳細は13ページをご覧ください。

【日ごろから…】

- 家族で連絡方法や合流場所を決めておく。
- ハザードマップで危険箇所を確かめたり、災害時を想像したりしながら、実際に歩いて帰ってみる。

【家族に子どもや高齢者、障がいのある人がいる場合】

- 通学・通園先や施設と災害時の対応を事前に決めておく。
- 友人や知人と送迎の協力について話し合っておく。
- 通学・通園先や友人・知人と複数の連絡先を共有しておく。



■正しい情報を入手しましょう

市からの広報、テレビやラジオなど信頼できる情報源から正しい情報を入手しましょう。発生直後は悪質なデマや、いたずらに不安感・恐怖感をあおるような誤った情報が流れます。真偽を確認し、冷静に対応しましょう。

【岐阜市からの情報を入手する手段】

・ぎふ防災安心メール ・市公式SNS(LINE、X、Facebook)、市公式ホームページ ・広報車による巡回 ・防災行政無線

●地震発生時の情報入手先

- ▶岐阜市の防災情報
- ▶岐阜県総合防災ポータル
- ▶気象庁「地震情報」 ▶内閣府「防災情報」

台風や集中豪雨、洪水への備えも

■普段からの備え

①「岐阜市洪水ハザードマップ」で、自宅周辺や避難経路上の危険箇所を認識しておきましょう。

●岐阜市洪水ハザードマップ

市内の河川が大雨で増水し、堤防が決壊した場合の「浸水想定区域図」に基づいて、浸水予想や浸水深、避難所などを示したものです。

※「岐阜市総合防災安心読本」(冊子・アプリ)に掲載→詳細は10ページをご覧ください。

※読本アプリや市ホームページから想定浸水深を把握しやすい3D洪水ハザードマップを閲覧可。

②最新の気象情報(天気予報・洪水予報)や河川水位・雨量情報を収集しましょう。

③家族や知人と連絡をとり、対応を確認しておきましょう。

●マイタイムライン

自然災害に備えて、前もって自分のとるべき行動を整理し、時間軸にまとめた個人の避難行動計画です。



「マイタイムラインアプリ」を活用して、平常時から災害時の行動計画を検討しましょう。

■大雨が続くときや台風が接近したときの対応

①雨戸を閉める、棧(さん)を打ちつける、窓ガラスにテープを貼るなど、窓や戸を補強する。

②風で飛ばされそうな物は固定するか屋内に入れる。

③むやみに外出しない。河川や崖などに近づかない。

④テレビ・ラジオ・インターネットなどで最新の気象情報(市からの避難に関する情報)を入手する。

⑤非常持ち出し品を再確認。停電や断水に備えて準備を。

⑥気象情報や河川水位・雨量情報に注意する。

⑦地下施設(地下街・地下室・地下通路・地下駐車場など)は危険です。早めに避難しましょう。

■身の危険を感じたら、早めに避難を

洪水などの危険が予測される場合、市は該当地域に対し、テレビ・ラジオ・インターネット、防災行政無線や広報車、「ぎふ防災安心メール」「緊急速報メール」で避難情報を発表します。避難情報は危険度に応じて2つの段階があります。発表されなくても、状況に応じて自主的な避難をお願いします。自主避難する場合は、避難所が開設されているか、確認してから避難してください。風水害時には、地域の地区公民館や小学校を優先して開設します。

●高齢者等避難(警戒レベル3)

避難を伴うような洪水になると予測される時、または河川がはん濫注意水位に達し、さらに水位上昇のおそれがあるときに発表されます。家財道具を安全な場所に移したり、防災関係機関からの情報に注意し、避難に時間のかかる人(子ども

■大規模災害発生時に家族や知人の安否を確認する方法

●災害用伝言ダイヤル「171」

安否確認のため、伝言を録音・再生できます。あらかじめ、登録する電話番号を家族や知人に伝えておきましょう。

【録音】「171」をダイヤル⇒「1」を選択⇒登録する人の自宅※、携帯電話などの番号をダイヤルして伝言を録音

【再生】「171」をダイヤル⇒「2」を選択⇒伝言を録音している人の自宅※、携帯電話などの番号をダイヤルして伝言を再生 ※市外局番からダイヤル

や高齢者、障がいのある人、病気の人)は避難を開始してください。コミュニティバスで避難する場合は、無料で利用できます。

●避難指示(警戒レベル4)

洪水などにより著しい危険が切迫しているとき、または河川水位が堤防高に達すると見込まれるときに発表されます。

■避難時に注意することは

- ①動きやすい靴を履く(長靴は水が入って動きにくくなる)。
- ②家族や隣近所に声をかけ、極力、単独で行動しない。
- ③かさや棒、枝などを利用して水深を確認しながら歩く。
- ④水の流れる場所や、冠水して安全が確認できない場所は避ける。崖や河川の近く、橋は避難経路にしない。
- ⑤避難指示が発表されても、避難場所への道が冠水・破損している場合は、無理をせずに自宅の2階や近くの高い建物などへ避難するなどの判断が必要。
- ⑥すでに災害が発生していることを把握した場合の緊急安全確保(警戒レベル5)が発令されたら、ただちに命を守るための最善の行動をとる。

■土砂災害警戒情報にご注意を

「土砂災害警戒情報」は、大雨警報が発表され、土砂災害の危険度が高まったとき、岐阜地方気象台と岐阜県が共同で発表します。土砂災害は水害と異なり、局地的・突発的に発生します。逃げ遅れないためにも、雨の状況や前兆現象(下記)を確認し、危険と感じたら迷わず避難しましょう。

●土砂災害の前兆現象【土石流】①流水の異常な濁り ②流木の発生、渓流内の転石音 ③山鳴り・地鳴り、水位の急激な低下【がけ崩れ】①湧水量の増加 ②小石の落下、湧水の濁り ③亀裂の発生

●土砂災害ハザードマップ(「岐阜市総合防災安心読本」に掲載)土砂災害の恐れのある箇所や避難所を表示しています。ご自宅周辺の災害危険箇所を確認するとともに、避難所までの避難経路を確認しましょう。

●大雨や洪水の情報入手先

- ▶気象庁「キキクル」 ▶国土交通省「川の防災情報」
- ▶岐阜県「川の防災情報」 ▶岐阜地方気象台ホームページ

大規模災害時に発生するごみについて

問 環境政策課(市庁舎14階/☎214-2175)

大規模災害時には、通常のごみのほか、大量の災害廃棄物(災害により壊れた家具や家電、家屋から発生したげきなど)が発生します。これらのごみを迅速・適切に処理するため、次のことにご協力ください。①災害廃棄物は分別を徹底し、市が指定する専用の場所(一次仮置場)に持ち込んでください。一次仮置場を開設する場合はお知らせします。②被災地域においては、ごみの収集を一旦停止することがあります。再開をお知らせするまで、自宅で保管してください。

●携帯電話災害用伝言板

安否確認のため、伝言板サイトに伝言情報を文字で登録・確認できます。利用には携帯電話番号が必要です。利用方法などは各社ホームページでご確認ください。

●公衆電話

大規模災害時は通話が優先され、つながりやすくなります。(初めに10円硬貨が必要)

●携帯電話のメール

大規模災害時は、携帯電話の通話に比べてメールはつながりやすい傾向にあります。

